

OpenText

NetIQ は、グローバルなデジタルトランスフォーメーションをサポートしており、オンプレミスと AWS クラウド環境にホストされているビジネスクリティカルなソリューションを透過的に橋渡しします。



OpenText とは

OpenText™ は世界最大級のエンタープライズソフトウェアプロバイダーです。世界中の数千のお客様がビジネスのコア IT 要素を管理して Run and Transform を同時に実現するためのミッションクリティカルなテクノロジーとサポートサービスを提供します。Cybersecurity は、OpenText™ の事業部門の 1 つです。

デジタルトランスフォーメーションにより加速する SaaS アプリケーションモデルへの移行

OpenText は、多くのお客様と同様、買収によってその規模を大きく拡大してきた企業です。買収による拡大戦略は、さまざまな部門で多くのツールが使用される状況を生み出しました。社内の識別情報管理を標準化するため、OpenText は自社の識別情報およびアクセスソリューションスイートである NetIQ 製品ラインを利用することにしました。NetIQ Identity Manager by OpenText™ および Access Manager by OpenText™ は、オンプレ

ミス環境で IT チームが管理する形態の製品でしたが、最近になり、多要素認証および効果的な Web サイト保護を提供する NetIQ Advanced Authentication by OpenText™ も新たにリリースされました。

Micro Focus と HPE ソフトウェアの合併により、組織の規模は 3 倍にまで拡大し、データハイジーン、監査のコンプライアンス、そして全般的なセキュリティに関して新たな課題が生じることになりました。同時に、市場では、オンプレミスの IT 環境を保守する負担やコストを軽減するために、SaaS ベースのソリューションに移行するというトレンドが鮮明になってきていました。Cybersecurity の CTO である Jon Bultmeyer は、Cybersecurity SaaS 製品構築に携わるエンジニアリングチームを率いています。彼は、OpenText の他のチームと緊密に連携しつつ、SaaS バージョンの顧客へのデリバリーモデルや社内でのデリバリーモデルの構築に取り組んでいます。Bultmeyer は次のように述べています。「アップグレードの作業に追われ、バージョンの更新状況が少し遅れていることがわかりました。12,000 名を超えるスタッフを擁する大規模な組織で識別情報管理を実行し、安全に運用するのは、手間も時間もかかります。そこで、この合併により組織の規模が急拡大した今が、Micro Focus (現在は OpenText の傘下) の中心部でデジタルトランスフォーメーションを実現し、識別情報とアクセスのアーキテクチャを AWS ホスト型のクラウド環境に移行する良いタイミングだと考えたのです」

Jon Bultmeyer
CTO
CyberRes

opentext™

概要

業種

テクノロジー

所在地

グローバル

課題

ビジネスクリティカルなソリューションを AWS クラウド環境に移行しつつ、シームレスなエンドユーザー エクスペリエンスを構築して、バックエンドサービスを効率化する

製品とサービス

[NetIQ Identity Manager](#)
[NetIQ Access Manager](#)
[NetIQ Identity Governance](#)
[NetIQ Advanced Authentication](#)

成功ポイント

- ハイブリッド環境全体で豊富な機能とシームレスなアクセスを実現
- シームレスなエンドユーザー エクスペリエンスでビジネスの複雑性を低減
- Cloud Bridge の導入によりハイブリッド環境で完全な双方向通信を実現
- AWS 導入によりスケーラビリティ、柔軟性、コストの予測可能性が向上

ハイブリッド環境における新機能と包括的なアクセスレビューの導入

OpenTextは、より広い視野からデジタルトランスフォーメーションを推進できるよう、CybersecurityのSaaS担当シニアディレクターであるDavid Gahanをリーダーとする、SaaSセンターのオブエクセレンス(CoE)チームを結成しました。CoEチームは、単に同じような機能をSaaSに置き換えるだけでなく、NetIQ Identity Governance by OpenText™によりプラットフォームの機能を強化するとともに、NetIQ Advanced Authentication by OpenText™の機能をSaaSモデルに拡張することにしました。それまではアプリケーションのアクセスレビューに重点を置いた「ガバナンス第一」の原則に従っていましたが、このプロジェクトではこれを転換し、アプリケーションへのアクセスと承認を自動化することで、アプリケーションへのアクセスの要求と許可を自動的に行える仕組みに移行することを目指しました。

このソリューションが実現すれば、顧客とのやり取りや注文処理を管理するSalesforce、統合人事ソリューションのWorkday、企業の財務を管理し運営をサポートするNetSuite、その他のビジネスクリティカルアプリケーションなど、社内で使用する重要なアプリケーションにシームレスに接続できます。加えて、認証レビューを実施する機能も実現できます。このような自動化されたプロセスを導入すると、誰が何にアクセスできるかを管理する包括的なディレクトリを構築することができます。すべてのプロセスおよびソリューションオーナーには、アクセスリストが正確に保たれているか定期的にレビューすることが求められます。個人が必要とする特定のソリューションへのアクセスレベルは、その職務により決定されます。この「最小権限」の原則を守ることで、適切なアクセスレベルを持つスタッフのみが財務プラットフォームの設定を行ったり、Workdayの機密人事データにアクセスしたりできるよう、権限を制限できます。

このプロジェクトは全社的なデジタルトランスフォーメーションの取り組みの一環として実施されたため、経営陣も注目することとなり、12か月以内に完了する必要がありました。

Cloud Bridge：ハイブリッド環境における完全に統合された識別情報ガバナンスの管理

OpenTextが擁するプロフェッショナルサービスには高いスキルと、Cybersecurityのユーザー向けにシステムを構築するだけの専門知識が備わっていたため、それが大きな力を発揮しました。SaaS CoEチームはSaaSインフラストラクチャの構築作業に、Bultmeyer率いるエンジニアリングチームはSaaSアプリケーションの構築に取り組みました。一方、プロフェッショナルサービスチームはオンプレミスでNetIQ Identity Governanceを導入し、相互に絡み合う数多くの要素から構成されていたアプリケーションの統合に取り掛かりました。日常業務の遂行が最も優先されるため、このプロジェクトはハイブリッドのアプローチによる「Run and Transform」のシナリオに沿って進められました。主要なビジネスシステムが段階的にSaaS環境に移行される一方で、その他のシステムは当面の間引き続きオンプレミスで稼動し続けました。識別情報ガバナンスの仕組みをオンプレミスのシステムとSaaSベースのシステムとの間で統合するのは容易ではなく、またCybersecurityは、イベントベースで統合を全自動化しようと考えていました。市場に出回っている製品の中には、CSVファイルの転送やサイト間VPN接続を手動で行うものがありますが、このような手動のプロセスが存在するとファイアウォールの複雑性が高まる弊害があることを認識していたからです。

このような統合が容易ではないのは、OpenTextに限ったことではありません。そこでBultmeyerのチームでは、OpenText Cloud Bridgeの構築に着目しました。Bultmeyerは次のように述べています。「Cloud Bridgeは、すべてのCybersecurity SaaSソリューションの通信を橋渡しする単一のブリッジとしての役割を果たします。Dockerコンテナを通して、オンプレミスシステムとSaaSシステム間の安全な双方向通信が可能になります。Cloud Bridgeエージェントの設定時には特別なルールはないため、オンプレミスのシステムとクラウドベースのシステム間の通信をわずか1時間足らずで確立し、稼動できます。監視も1か所で行えるため、問題が発生しても迅速に対応できます。Cloud BridgeによりSaaSへの移行が非常にスムーズになるとともに、さまざまなシステム間

での効果的なデータフローの実現に欠かせない監視機能も手にすることができました」

新型コロナウイルスを受けた新しい働き方に対応しつつビジネスの複雑性を低減

CoE SaaSインフラストラクチャの運用が開始された後、プロフェッショナルサービスチームはオンプレミスに導入していたNetIQ Identity GovernanceをAWS環境に移行しました。これにより、主要なシステム間のエンドツーエンドの統合ワークフロー、統合されたパスワード管理、シングルサインオン、Cloud Bridgeを通した完全な可視性、OpenText™ Vertical™の機能による高度な分析を備えた識別情報ガバナンス環境ができあがりました。Gahanは次のように述べています。「以前は、さまざまなアプリケーションでアクセス制御の仕組みがバラバラでしたが、SaaS環境で当社独自のNetIQ[by OpenText]ソリューションを利用したことにより、シームレスなエンドユーザー エクスペリエンスを構築できました。従業員が顧客へのサービス提供に使用するソリューションと、社内のニーズに応じて使用するソリューションが標準化されたことにより、社内全体で複雑性を大きく低減することに成功しました。すべての事業部で識別情報とアクセスの概念がシンプルになり、標準化されたことで、バックエンドにも非常に大きなメリットがありました」

Bultmeyerはさらに次のように付け加えます。「プロジェクトの実施時期は、新型コロナウイルスのパンデミック発生と偶然重なりました。そのため、当社も、世界中のお客様と同じ問題に直面することになりました。これまでのように、ホワイトボードの周りに集まってブレインストーミングを行うという従来のやり方が突然できなくなり、リモートワークに急いで慣れなければなりませんでした。幸いなことに、このような急激な環境の変化があっても私たちの決意が揺らぐことはありませんでした。Micro Focus(現在はOpenTextの傘下)のITチーム、専任のプロジェクト導入チーム、製品管理チーム、バックラインのエンジニアリングチーム、新たに結成されたCoEチーム、カスタマーサクセスチームなど、多くのチームがシームレスに連携をとり、調整しながら導入作業を進め、発生する問題に対処することができました」

「NetIQ [by OpenText™] ソリューションにより、当社の識別情報ガバナンスをシンプルにし、効率的な通信ラインを実現することができました。AWSとの戦略的パートナーシップにより、当社の成長に合わせて拡張可能で、かつコストの予測可能性を備えたモデルを構築し、AWSを利用しない場合と比較して非常に短時間で追加の機能を展開できるようになったことを嬉しく思っております」

Jon Bultmeyer
CTO
CyberRes

お問い合わせ
www.opentext.com



柔軟な AWS 環境における豊富な機能とコストの予測可能性

Gahan は、SaaS ユーザーのサポートに専従する新たなグローバル組織である SaaS CoE の陣頭指揮を執っています。SaaS CoE チームは、ガバナンスポリシーを定義し、ソリューションを設計して、SaaS 環境でそのソリューションを設定するための豊富な専門知識を持っていますが、この知識を活かし、真にハイブリッドな識別情報ガバナンスプラットフォームを構築しました。エンドユーザーは、アクセスするデータがオンプレミスにあるか、クラウド上にあるかを意識することなくプラットフォームを利用することができます。Gahan は次のように述べています。「まさに理想的なプラット

フォームです。エンドユーザーは、シームレスな多要素認証や高度なアクセスレビュー プロセスなどの豊富な機能を利用できるようになり、手作業を大幅に減らすことができました」

Bultmeyer は次のように締めくくります。「NetIQ [by OpenText™] ソリューションにより、当社の識別情報ガバナンスをシンプルにし、効率的な通信ラインを実現することができました。AWSとの戦略的パートナーシップにより、当社の成長に合わせて拡張可能で、かつコストの予測可能性を備えたモデルを構築し、AWSを利用しない場合と比較して非常に短時間で追加の機能を展開できるようになったことを嬉しく思っております」

opentext™ | Cybersecurity

OpenText Cybersecurity は、あらゆる規模の企業とパートナー様を対象に、包括的なセキュリティソリューションを提供しています。予防から検出、復旧対応、調査、コンプライアンスに至るエンドツーエンドの統合プラットフォームにより、包括的なセキュリティポートフォリオを通じてサイバーレジリエンスの構築をサポートします。コンテキストに基づくリアルタイムの脅威インテリジェンスから得られた実用的なインサイトを活用できるため、OpenText Cybersecurity のお客様は、優れた製品、コンプライアンスが確保されたエクスペリエンス、簡素化されたセキュリティというメリットによって、ビジネスリスクを管理できます。